

NEWS RELEASE

2021年2月10日

日本豆乳協会

SOY2103

日本豆乳協会

2020年における豆乳類の生産量が430,534 kℓを達成、 過去最高の生産量を記録

～ コロナ禍において、外食需要が減少する中で、宅内における利用が促進され、
この10年間で、無調整豆乳は6倍に拡大し、調製豆乳に迫る勢いで市場が成長 ～

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：重山 俊彦 キッコーマンソイフーズ株式会社 取締役会長、事務局長：川村良弘、以下豆乳協会）では、2020年1-12月期における豆乳市場の動向について検証したところ、豆乳類全体の生産量は430,534 kℓとなり、前年と比べ、5.3%増を記録し豆乳を中心に市場が伸長しています。

また、豆乳協会では、四半期毎に国内豆乳生産量を検証しており、2020年10月-12月期においては、108,412 kℓ（101.6%）となりました。豆乳類を分類別に見ると、「豆乳（無調整）」の生産量は31,185 kℓ（98.8%）、「調製豆乳」は、54,112kℓ（104.5%）、「果汁入り豆乳飲料」は、4,042 kℓ（100.2%）、コーヒーや紅茶などの「フレーバー系の豆乳飲料（その他）」は、14,596 kℓ（95.3%）となり、出荷量においても生産量と同様の傾向を示しました。豆乳協会では、今期、昨年同期を下回るカテゴリーについては、コロナ禍において、外食需要が減少したことに加え、テレワークが推奨されたことで、オフィス街を中心とするコンビニでの利用者減が相まって、やや減少に転じたと分析しています。一方で、調製豆乳を中心に、宅内需要は引き続き増加傾向にあり、家庭内での豆乳の普及が進んでいると考えています。

また、2020年においては第2四半期より、豆乳類の生産量は四半期で約110,000 kℓ前後となり、特に「豆乳（無調整）」や「調製豆乳」の愛飲者が増加傾向にあります。豆乳類の中で最も生産量が多い「調製豆乳」においては95,832 kℓ（2008年）から209,289 kℓ（2020年）と倍以上に増加しています。また、「豆乳（無調整）」は、2008年に20,999 kℓであったのに対し、2020年には125,035 kℓと、この10年間で約6倍となり、調製豆乳の生産量にだんだんと近づくほどに伸長を示しています。生活者への豆乳の飲み方、

食べ方、料理などの提案が受け入れられ、日常的に鍋や料理に加え、コーヒーや紅茶等にも気軽に使用するようになってきたことなどが、家庭の中に、豆乳を愛飲する習慣が浸透してきていることを確認しました。

豆乳協会では、引き続き、国民一人あたりの豆乳（類）年間飲用消費量を 4ℓに増加させ（2015年 2.4ℓ / 総人口 12,700万人）、年間総生産量を 50万ℓにすることを目標に、豆乳に対する人々の理解や関心を高めるため、年間を通じて様々な啓発・啓蒙活動を展開していきます。

なお、主に業務用にあたる「その他」に分類される豆乳の 1月-6月期の生産量をこれまででは合計 5,319ℓとしてきましたが、一部追加集計があったため、実際には、7,920ℓとなります。

（参考）

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓蒙活動を行っています。昭和 54年 9月 1日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓蒙活動を展開しています。毎年 10月 12日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

（株）VA インターナショナル
田中/陳

TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017